

登録団体

NPO 法人 エガリテ大手前 頑張っている自治体の私設応援団 —市民の目線で、男女共同参画を評価

◆女子の名簿が先の高校で学んだ仲間たち

当NPOは大阪にある高校の首都圏在住同窓生が中心となって設立された。この高校の前身は女学校であり、1905(明治38)年に、卒業生が私設女学校を無償で始めた歴史がある。当時の大阪府には女学校が2校しかなく、ほとんどの女子に中等教育の機会が与えられていない状況に、関係者が立ち上がったのだ。戦後の男女共学化では、学生名簿は女子全員の後に男子が続くという独特の方式が採用された。そのような伝統もあって、学生や卒業生には、早い時代から男女共同参画への意識が芽生えていたように思われる。

先の女学校設立から百年を経て、日本の女子教育は大きく進展した。それに次ぐものとして、私たちは、男女共同参画社会の促進への寄与を目的として活動を始めた。2004年に設立し、2005年にNPOとして認証された。MIWには当会設立時からお世話になっており、MIWの秋葉原時代を知る団体でもある。

◆独自に実施、全国「子育て環境ランキング調査」

代表的な活動としては、毎年発表する「子育て環境ランキング調査」がある。今年4月には第5回を発表した。各種メディアにも取り上げられ、ユニークな調査として定着してきている。全国主要52都市と東京23区の子育て環境(出産、乳幼児保育、児童福祉、児童養護、児童保育、母子福祉、小児医療など)を独自の基準で比較するもので、千代田区は東京23区で5年連続1位を獲得している。昨年は、当NPOから千代田区に「優秀環境賞」を授与させていただいた。

また、2008年から「次世代育成支援「行動計画」進捗ランキング調査」を発表しており、今年5月に第3回を発表した。子育て環境の自治体間格差が見られる中で、市民による健全な監視役として、「頑張っている自治体の私設応援団」を標榜して市民目線からの活動をしている。詳細は<http://egaliteo.com/>を参照いただきたい。

男2代の子育て講座

「離乳食も結構いけるなあ」「抱っこなんて忘れたなあ」。土曜の午後、60代のおじいさんや20代のパパの熱気が教室にあふれた。場所は北九州市の「子育て触れ合い交流プラザ」。机には、赤ちゃん人形、沐浴槽、バスタオルなどが並び、抱っこに始まり、浴槽の準備、身体の洗い方、オムツ、着替えへと次々と課題が与えられる。ベビーマッサージの実習も続く。ざこざこないが真剣そのものの男たち。その姿に傍聴の人たちに微笑がこぼれる。2週間わたる、育児の心構え、基本知識、技能の講習を経て、全過程を修了した8人に資格認定「ソフリエ」「パパシエ」を授与したのである。授賞式では、北九州市長からの認定証授与、講座関係者による座談会、読み聞かせ講座などが行われ、90名の一般市民も参加して世界初の資格認定を祝った。65歳の「ソフリエ」は「百点満点のおじいちゃんを目指す」と宣言し、30歳の「パパシエ」は「また新しい子育ての楽しさを知った」と感謝した。この企画は当NPOの提案に基づいて、東京・北九州の遠隔コラボによって実現したユニークなものである。

老若男女が共同して子どもたちを育てていく社会。その担い手として元気な高齢者の知恵と能力を存分に発揮してもらいた

現在、MIWの登録団体は30。登録団体の皆さんに、グループの活動とともに、活動に関係するテーマについて書いていただきました。



いと思っている。私たちは、パパさんとジイさんが頑張る社会を、パパ・ジジ・ガンバル、「パジル社会」と呼ぶ。パジルは最高のハーブ。自分を主張せず、周囲の素材や旨みを最大に引き出す。それこそが高齢者の特性だと信じる。「ソフリエ」にはその象徴として社会変革の起爆剤を期待している。これからも、全国各地での実施に向けた取り組みを進めてゆきたい。



▲講座風景 男2代子育て講座ポスター▶



*「ソフリエ」: 男性高齢者の孫・ひ孫育ての参加を促すエガリテ大手前の独自の認定資格 / 「パパシエ」: 男性の子育て参加を促す同資格